

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】令和 4 年 7 月 28 日(2022.7.28)

【公開番号】特開 2021-144870(P2021-144870A)

【公開日】令和 3 年 9 月 24 日(2021.9.24)

【年通号数】公開・登録公報 2021-045

【出願番号】特願 2020-43008(P2020-43008)

【国際特許分類】

H 0 1 R 13/11(2006.01)

H 0 1 R 11/11(2006.01)

H 0 1 R 4/50(2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/11 A

H 0 1 R 11/11 G

H 0 1 R 4/50 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 7 月 20 日(2022.7.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

図 4 に示されるように、スライド部 16 の左側壁 34 および右側壁 39 には、前後方向の前端部寄りの位置に、仮係止受け部 26 が開口されている。また、スライド部 16 の左側壁 34 および右側壁 39 には、仮係止受け部 26 よりも後方の位置に、本係止受け部 27 が開口されている。仮係止受け部 26 と、本係止受け部 27 は、端子本体 15 の左側壁および右側壁に設けられた係止突起 28 と弾性的に係止可能になっている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

第 1 上壁 30A は、スライド部 16 の右側壁 39 の上端縁のうち、前後方向について中央付近の部分が、左方に折れ曲がって形成されている。第 1 上壁 30A は上方から見て略長方形形状をなしている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

図 9 に示されるように、前側から順に、第 2 上壁 30B の下方には第 2 重なり部 53 が配されており、第 1 上壁 30A の下方には第 1 重なり部 52 が配されている。第 2 重なり部 53 の下面と、第 1 重なり部 52 の下面と、第 3 上壁 30C の前端部の下面は、ほぼ面一に形成されている。これにより、上側挟持部 18A は、スライド部 16 の内部を、第 2 重なり部 53 の下面、および第 1 重なり部 52 の下面に案内されて、第 3 上壁 30C の前端

10

20

30

40

50

部の下面へとスムーズに移動する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

図10に示されるように、治具45によって突出部46が前方に押圧されると、突出部46が設けられた第1上壁30Aが前方に押圧される。すると、第1上壁30Aが全体として前方に押し出され、第1上壁30Aの前端縁が、後保持部54に後方から接触する。これにより、治具45が突出部46を前方に押圧する際に第1上壁30Aに加えられた力は、第2上壁30Bの後保持部54によって受けられる。これによりスライド部16の強度を向上させることができる。

10

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0072

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0072】

第1上壁30Aは、前後方向に延びる第1折れ曲がり部32を介して右側壁39とつながっている。このため、第1上壁30Aは、治具45によって後方から押された場合でも、前方にまっすぐに移動できない。具体的には、第1折れ曲がり部32の後端部が支点のように機能して、上方から見て、矢線Aで示される方向に概ね回転するように動く。上記のように第1折れ曲がり部32は前後方向に延びているので、第1上壁30Aは完全な円運動をするわけではない。また、第1折れ曲がり部32の後端部が厳密な回転中心となるわけではない。

20

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0073

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0073】

押圧部によって第1上壁30Aが後方から押圧されると、第1上壁30Aの前端縁のうち左側壁34側に形成された第1接触部50は、第2上壁30Bの後保持部54に後方から当接する。第2折れ曲がり部33は折れ曲がっているため、第2折れ曲がり部33の強度は、左側壁34および第2上壁30Bよりも大きくなっている。これによりスライド部16の強度を向上させることができる。

30

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0074

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0074】

本実施形態によれば、右側壁39の上端縁には、第1折れ曲がり部32よりも前方の位置に、上方に突出する前保持部55が形成されており、第2上壁30Bには、前保持部55の後方に、第2接触部51が設けられており、第2上壁30Bの後保持部54に加えられた力は、第2接触部51が前保持部55に後方から当接することによって受けられる。

40

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0076

50

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0076】

第1接触部50によって後保持部54が後方から押圧されると、第2上壁30Bのうち左側壁34側に形成された第2接触部51は、第1上壁30Aの前保持部55に後方から当接する。これにより第2接触部51が受けた力が前保持部55によって受けられるので、スライド部16の強度を向上させることができる。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0078

10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0078】

治具45によって突出部46が後方から前方に押圧されると、第1上壁30Aは、上方から見て、第1折れ曲がり部32の後端部が支点のように機能することにより、概ね回転するように動く。突出部46は、支点のように機能する第1折れ曲がり部32の近傍に形成されているので、突出部46が後方から押圧されたときに、第1上壁30Aが回転しにくくなっている。これにより、スライド部16の強度を向上させることができる。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0080

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0080】

突出部46は、第1上壁30Aが曲げられることにより形成されているので、突出部46を構成する金属板材の厚さが、他の部分よりも薄くなる部分が形成されにくい。これにより、突出部46の強度を向上させることができるので、スライド部16の強度を向上させることができる。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0081

30

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0081】

本実施形態によれば、スライド部16は、第1上壁30Aの後方に第3上壁30Cを有し、上側加圧部25Aが第3上壁30Cに設けられている。

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0082

40

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0082】

第1上壁30Aに形成された突出部46が後方から押圧されると、この突出部46に加えられる力は、第1上壁30Aよりも前方に位置する第2上壁30Bによって受けられる。一方、上側挟持部18Aを押圧する上側加圧部25Aが第3上壁30Cに設けられていることにより、上側挟持部18Aから上側加圧部25Aに加えられる力は第3上壁30Cによって受けられる。これにより、突出部46が受ける力と、上側加圧部25Aが受ける力を1つの上壁で受ける場合に比べて、スライド部16に加えられる力を分散させることができる。これによりスライド部16の強度を向上させることができる。

50